

1 学校教育目標							
校訓		『常に善を追い求めよ 常に喜べ絶えず祈れ すべてのこと感謝せよ』～キリスト教主義による教育の展開～					
めざす学校像		成長実感もてる学校 ～「増えた・できた・広がった」が溢れる学び舎に～					
教育目標		社会に貢献できる人材の育成					
2 現状分析							
令和4年度の入学生は214名、2年生は175名、3年生は208名で、全校生徒597名となり、生徒数は前年度比10名の減となった。少子化が進む中、本校第一志願入学者の増加を図るべく、教育内容の充実発展はもとより、部活動における優秀選手の確保や学習成績優秀者の入学促進などに努めた。導入4年目の一般入試での成績優秀奨学生制度では、1名増となる7名が入学した。今後とも、より多くの人に本校の良さを知って頂けるよう学校行事等の積極的な地域公開、ホームページ等での情報発信を進める。							
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題							
①学び続けるための基盤となる知識とスキルを育てる[学び方を学ばせる、D3ゾーンの学力底上げ、ICT活用の個に応じた学習で伸ばす]							
②心と体の健康を保持増進するための実践力を育てる[自己肯定感を高める、Withコロナの活力対策、特別活動や部活動で伸ばす]							
③社会の一員として参画し貢献する意識と態度を育てる[人間関係力を高める、18歳成人の自覚と能力を育む、進路学習や地域交流で伸ばす]							
4 自己評価						5 学校関係者評価	
領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	意見・要望等	評価
学習指導	・基礎学力の向上 ・分かる授業、参加する授業の確立 ・生徒が安心して学べる学校に	・ICT教材について生徒の積極的な活用を促す。基礎力診断テストの振り返りを確実にし、成績下位層の底上げに繋げる。漢字テストに加えてタイピングテストを実施する。 ・授業研究の活性化と他校の公開授業への積極的参加と研究を行うと共に全員による公開授業を実施する。	4 総合実施率80%以上	3	・基礎力診断テストの振り返りについては学年主任を中心とし意識的に取り組めた ・ICT教材の活用については学年・クラスにより偏りがあった ・全員実施を目標とする校内公開授業の実施数が減少した	・単に自身が取り組むだけでなく、他者の取り組みからさらに学ぶ姿勢が必要である。	B
			3 総合実施率70%以上				
生徒指導	・社会性と道徳心の育成 ・目標に向かって努力できる生徒の育成 ・ルールの遵守と交通安全を常に心がける生徒の育成	・生徒指導アンケートやシグナルチェックによる情報収集に努め問題傾向を把握し具体的な指導方法を実践する。 ・過去のデータを基に年間指導計画を作成し月ごとに重点目標を定める。 ・交通事故と盗難の防止、校則の見直し	4 総合実施率80%以上	4	・各学年によるきめ細やかな指導により処分件数はゼロであったが警察の捜査対象となる事案も発生し保護者への対応も困難であった ・SNSによるトラブルは後を立たずより一層の情報モラル教育が必要である ・シグナルチェックの重要性が理解されはじめその情報が役に立った	・外部の評判、評価が高く、本校の強みとして今後更に充実させ定着を図っていく。	A
			3 総合実施率70%以上				
進路指導	・将来の社会生活や職業生活に向け、学校生活全体を通して生きる力を高める。 ・進路指導体制の再構築	・将来を見通して的確な進路選択を確立する。 ・働くことの意義を理解させ、勤労意欲を向上させる。 ・基礎学力の充実とともに、進学に向けての意欲・学力の向上に努める。	4 総合実施率80%以上	4	・夏季休業下旬からの就職指導はリモートでの指導も含め学年のカラーを出した指導ができた ・卒業生の声をリアルに伝えた進路通信に私学ならではの良さが出せた ・進学コースの指導では早期からの意識付けが功を奏し例年にならぬ成果を挙げることができた	・進学の個別指導に要する時間が長く、関係教員の負担は大きい。成果につながりつつある。	A
			3 総合実施率70%以上				
募集対策	受験者数、入学者数、オープンスクール参加者数の増加	・中学校から信頼を得られるよう何度も足を運ぶ。 ・オープンスクールでのおもてなしの強化 ・学校案内の見え易化(動画)やSNSを利用した情報配信やホームページの更新	4 総合実施率80%以上	4	・中学校担当が綿密に訪問などで情報交換を行い受験者数やオープンスクールの参加者数を増加させることができた ・進学実績の成果を広く報じることに努めた	・学校要覧、学校案内の配布範囲の拡大 ・オープンスクール年2回開催の定着化 ・こまめな中学校訪問	A
			3 総合実施率70%以上				
業務改善	学校の組織等 学年会議・教科会議 協働体制の強化を図る	・教科会議による指導法の工夫と共有化の徹底 ・学年会議を軸にした共通・協働姿勢の強化	4 総合実施率80%以上	3	・最優先すべき教科指導の工夫改善が、多忙な中で、やや停滞気味である。 ・学年行事や生徒指導などでの学年団の協働姿勢は高く評価できる。	・今後も組織力の強化を図ることが更に必要である。	B
			3 総合実施率70%以上				
善	日常的な業務 校務の処理方法を見直し効率化を図る	・事前の調整、起案・決裁等の文書事務の改善	4 総合実施率80%以上	3	・会議におけるペーパーレス化はほぼ達成した。 ・文書事務は改善しつつあるがより一層のチェック機能、情報の共有化を図る必要がある。	・業務を遂行する中で、工夫やアイデアが生まれつつある。	B
			3 総合実施率70%以上				
善	勤務状態 綱紀保持の徹底 教員の意識改革を図る	・管理職による啓発活動の促進 ・組織の一員として業務に向き合う姿勢の確立	4 総合実施率80%以上	4	・教員は使命感や責任感が強く情熱もあり、労を惜まず取り組んでいる。 ・担当業務に関する個人のスキルが高いため担当者任せになりがちである。	・人権意識を高め、保護者が安心できる指導の実践を求める。	B
			3 総合実施率70%以上				
6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
① 学習面においては、導入から2年目となる一人一台端末の活用により、「スタディサプリ」、「Classi」、「すらら」といったICT教材を利用した学習を活性化させ、生徒の学習意欲・学習習慣の醸成と能力・適性に応じた学力向上に努めた。							
② 就職では、組織を挙げての求人活動・面接指導・受験指導(入社・大学入試)等に当たり、就職希望者の100パーセントの内定18年連続を達成し、大手企業を含め県内外へ人材を送り出した。進学においては、山口大学、宮崎大学、横浜市立大学などへの合格を達成するなど、進学コースの進路実績として大きな成果を残した。							
③ 令和5年度入試では、本校第一志願入学者の増加を図ろうと推薦・AO入試の改善に努めたが、合格者数は前年比1名減の126名(うち1名入学辞退)となった。また一般入試においては864名の志願を受け、不合格者数は過去最少に近い数に抑えたと共に極力第一希望の合格とするなどの配慮を行ったが、入学者は22名減の64名に留まり、計189名の入学となった。公立2次試験によって11名が入学を辞退したことだけでなく、推薦受験数がAO受験数に大きく流れた点も含め、インターネット出願への転換も視野に入れながら、公立高校と競合しても選ばれる学校となるよう、更なる教育力の向上と生徒募集の工夫が求められる。							
7 次年度への改善策							
①学び続けるための基盤となる知識とスキルを育てる[学び方を学ばせる、個に応じたICT活用学習で伸ばす、探究的な活動で主体性を育む]							
②自由で活発な活動の機会を確保し体験を伴う実践力を育む[人間関係力を高める、密集密着の有効な活動を再開する、特別活動や部活動で伸ばす]							
③変化する社会への対応力と社会貢献への意識と態度を育む[安全で適切なSNS活用へ導く、自己肯定感を高める、進路学習や地域交流で伸ばす]							
本年度の成果と課題を踏まえ、①による学習指導、②による心身の健康、③による社会性の構築に取り組む。							